



中央駅（フリンダースストリート駅）

# メルボルン・サントリンハム 補習授業校

The Japanese Saturday College of Melbourne

URL <https://www.jsc-mel.com>

児童生徒数 幼=76人 小=176人 中=42人 高=11人

優れた学習環境を誇る  
メルボルン

オーストラリアの南東部に位置するビクトリア州は、オーストラリアの中では二番目に小さい州（それでも日本の本州とほぼ同じ）だが、人口は二番目に多い。

州都メルボルンは気候が温暖で、文化が多様性に富み、治安もよい。町には多くの公園があり、海岸にも面している。図書館、博物館、美術館等も充実しており、質の高い専門学校や語学学校、大学が多く、世界中から留学生が集まっている。メルボルンが教育文化都市といわれるゆえんである。安心して生活でき、優れた教育環境を有することから世界の住みやすい都市ランキングに毎年ノミネートされている。



近郊にあるブライトンビーチ

メルボルンは二〇二〇年三月からコロナ禍によるロックダウンが累計二六二日となり、世界最長を記録した。ロックダウン明けにワクチン未接種者への労働規制や行動規制があったため、日本人コミュニティでは帰国者も多く出た。本校も深刻な教員不足に直面した。

コロナ禍を乗り越えて、  
ニーズに応じた教育を目指す

本校は、二〇二一年四月に開校した。九人ほどだった児童生徒数は現在三〇〇人を超えている。幼稚園部、小学部、中学部のほか、現地高校生が受講する第二言語としての日本語補習クラスがある。

幼稚園部は年中と年長のクラスがあり、日本の文化や季節行事の体験・製作、日本語文字を指導し、学校行事として学期ごとの誕生日会や年に一度の運動会を実施している。小学部四年生以上は国語を一時滞在者と永住者のクラスに分けて行っている。

帰国を前提とする一時滞在の子どもたちには教科書以外の副教材も使用して、学年



借用校舎外観



幼稚園部 運動会



カレーの日



休み時間 (小学部5年)



中学部2年 国語



高校 Japanese Class



小学部1年 国語



中学部入学式

### 子どもたちから

先生がやさしくて友だちがやさしくていい。  
みんなが私になつてくれるので学校が楽しい。  
たのしい。(小2)

この学校には毎年、多くのイベントがあります。カレーの日、  
フリマ、マーケット、園遊会などです。私は毎週この学校に  
来るのが楽しみです。このようにイベントがある日は特に楽しんで、  
みんな学校に通ってよかった。(小5)

この学校はほんとです。先生はとも分り  
やすく考え、これこれ分らないことは分るまで  
考え込んでくれます。毎月の学習会にこれによって分るまで。  
(中1)

ただで一日を過ごす補習校  
の大切さを、ここで繰り返  
される学習活動や学校行  
事の大切さを、このコロナ  
禍をきっかけに日本人コ  
ミュニティーの誰もが再認識  
している。オンライン授業  
のノウハウを生かして、ニ  
ーズに応じた教育を目指し  
ていきたい。

(二〇二三年二月現在)

相応の国語力を維持するように努めている。長期の海外滞在では漢字力や読解・作文力の低下が避けられず、帰国後の学習に支障を来す。海外滞在中の国語力の維持はたいへん重要なことだと考えている。

一方、永住者のクラスについては、小学部では教科書をスムーズに読み意味を理解できることを目標にして、漢字の読みと語彙の理解に力を入れて年齢相応の文章が読めるように指導している。また中学部では小学五・六年生程度の国語の読解問題や小学校の社会科の教科書を使用して、日本の地理、歴史、公民を学習し、日本語の文章内容をより深く理解できることを目標としている。この社会科学習ではビデオ教材をとり入れ、日本語リスニング力の向上にも力を注いでいる。習得した日本語力のアウトプットにも力を入れ、創作文を書いたり、テーマに添ってリサーチし、パワーポイントを使用したプレゼンテーション、弁論大会

会やディベートなどで学年枠を超えて発表したりしている。

本校は二〇二〇年度に九カ月間の、二一年度には六カ月間のオンライン授業を実施した。二〇年度の一学期間、子どもたちは教員が独自に作成したパワーポイント教材を家庭で用い、助けが必要な場合、質問タイムに担任に質問できるような形で学習した。しかし家庭の負担が大きくなり、また個人差も広がったため、二学期からは対面授業と同じ時間割でオンライン授業を実施した。二二年度は四月から対面授業ができて、子どもたち、保護者、教職員も本来の教室での授業に安堵<sup>あんど</sup>している。

コロナ禍での経験から私たちは、教員が教室で指導する対面授業の大切さを実感し、校内で友達と遊び、いっしょに学ぶことが補習校に通い続ける大きなモチベーションになっていることを実感した。本校は校内で英語を使うことを禁止している。日本語だけで一日を過ごす補習校